

昨日「全斗委」、二部の校議委員会と襲撃！ 市大の暴力支配＝それが封鎖の本質だ

昨日(初)午後7時、二部自治会と「全斗委」の団員が、新「ヘルメット」などが、ヘルメット、棍棒、鉄パイプで完全武装し、なぐり込みをかけた。彼等は消火器でもって、二部学生百五十名以上の服が燃え上がる程まきちらし、目をおさえている学生の学友に角材、鉄パイプでメチャクチャになぐりかかり、頭部を割られたりした重傷者を十数名出した。学友諸君、これが彼等の「民主化」であり、「封鎖」貫徹である。彼等はハレンチにも全学連支持会議の部屋から看板の角材を盗み出し、その角材に「市大解体」「民殺棒」「民書を殺すための棒」などと彼らの血迷った本質をあらわしたスローカーを書き込んでいる。我々がもしこの気遣いどみに暴行を許し、彼らをこれ以上に放置してあくなば、「封鎖」の拡大、「市大解体」といった自動のエスカレート以外何も見えないのである。

① 経過 学友諸君、昨夜の経過を最初から明らかにしよう

昨晩8時30分より、二部自治会と全学連との団交が始まった。その時、突然「社会学」部「総一会議」重新グループなどの完全武装した連中の名位があしかけ、「全見の中止を押しつけようとした。二部学友200名の抗議に会うと、彼らは二番教室の外側にバリケードをつくり、教官・学生を中に閉じ込めた。彼らはなおも執拗に襲撃をつづけ、11時頃教室の中に入り大量の消火器をまき、目つぶしをくりつかげみ込んでくる。至く無防衛の学友に角材、鉄パイプでなぐりかかった。この日の夜を割られたりした重傷者が続出し、これ以上放置してあくと団交参加者全員が非常に危険であった。二部のへ部学連支持会議は外側から彼らを追いこした。その後、彼らは専門の校門を封鎖し再度の襲撃準備、23時30分同グループに集まっている我々におそひかかり、無防衛の我々に火炎ビンまで投げつけて暴行をほし、いままに、二番教室をさまわる負傷者を出した。逃げ場をなくし、我々は急ぎ、経路研究所の中にいる我々も、彼らの襲撃を防ぐために、内側からガラスを破り、水を入れた。彼らは何度も石を投げ周囲の窓がガラスを破壊して中に侵入しようとしたが我々は断固としてこれを退却した。失の二番教室の時と合わせて、10数名が数針、幾つ重傷を負い、顔面の切り傷を付せると20名以上が負傷した。

二部自治会
全学連支持会議

② 学友諸君、

彼らは、自分たちが襲撃した車に付いていろいろ口裏をつけているがすべて証拠のあるところ、二部の民権を侵害する民主化斗争を主張しようとしたからだと公然とその襲撃を認めている。もしこの理説をみとめるならば、封鎖に反対する一切の自治活動は、たとえ火炎ビンを使わずに破壊しても構わないということになる。つまり、彼等の襲撃の対象は学生や二部自治会だけでなく、封鎖に反対し民主化綱領を絶対視し、いすべのブルジョア・自治機関は、彼らの「ゲル棒」と「鉄パイプ」の使用対象となるのである。

学友諸君、

「これが彼等の「民主化」であり「封鎖」である。
以上明らかにように、彼らの「ヘルメットとカバ棒」で「封鎖」は、明らかに「民主化」と相反するものであり、断固彼らを糾弾する。な乾は学友の意思と民主化の方向こそが、事態を解決し「民主化」を勝利させるものである。